



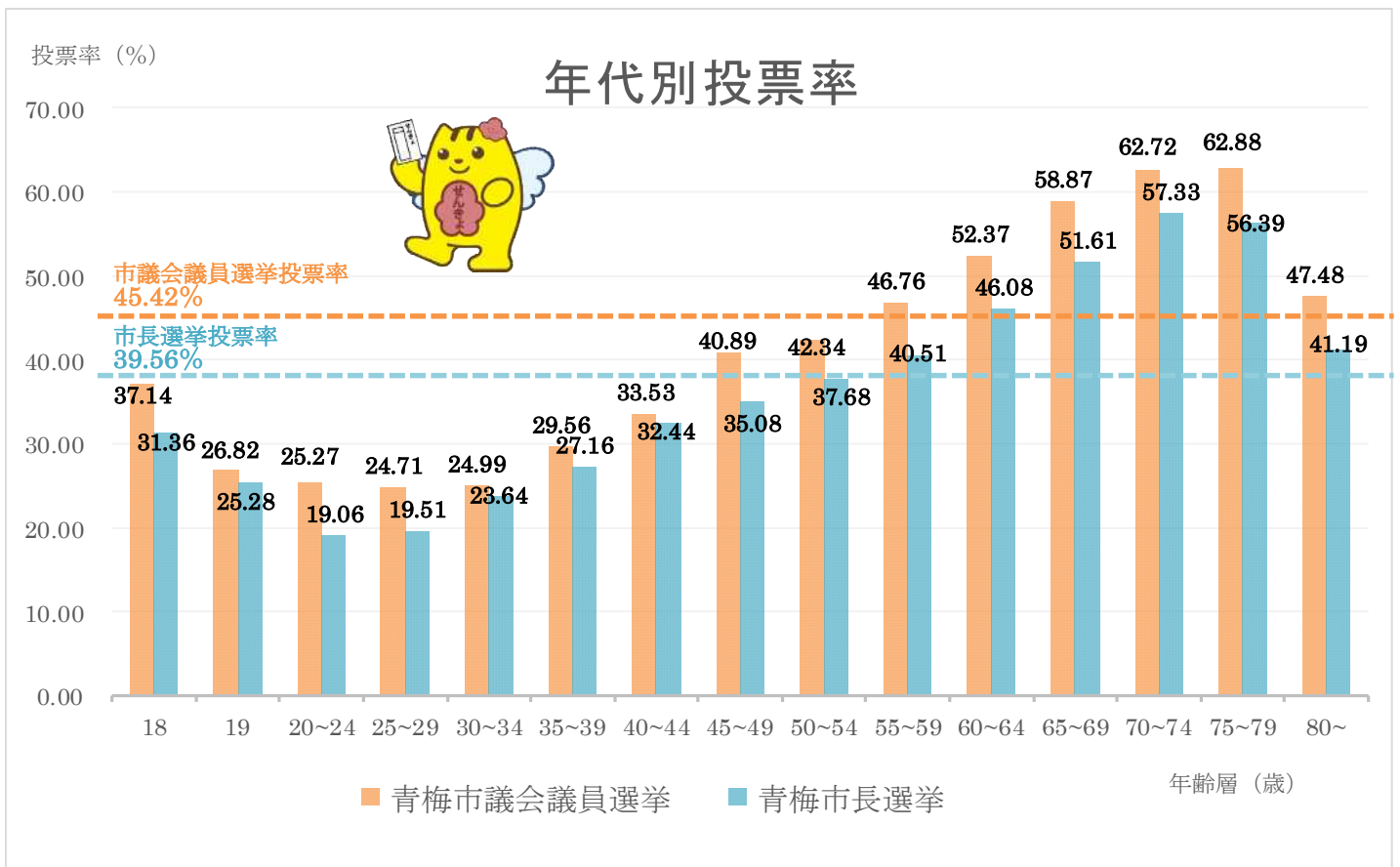
おうめしろばら

第19号 令和6年3月
 発行：青梅市明るい選挙推進協議会
 青梅市選挙管理委員会
 TEL 0428-22-1111(代)

青梅市の有権者数：男 56,075人
 女 55,652人
 合計 111,727人
 (令和5年12月1日現在)

令和5年度における選挙結果

選挙名	4月23日執行 青梅市議会議員選挙	11月12日執行 青梅市長選挙
当日有権者数	110,520人	110,596人
投票者数	50,194人	43,750人
投票率	45.42%	39.56%
前回投票率	47.91%	36.51%



★令和5年度明るい選挙ポスターコンクール 青梅市審査賞★

小学生の部



私立早稲田大学系属早稲田実業学校初等部
高野 一路さん (4年生)

令和5年度明るい選挙ポスターコンクールは東京都全体で小学校の部は4,882点、中学生の部は9,467点、高校生の部806点、合わせて15,155点の応募がありました。



たくさんの応募
ありがとう!!

今年もたくさんの応募を
お待ちしております!



中学生の部

令和5年度明るい選挙ポスターコンクールは、小学生の部28点、中学生の部96点、合計124点の応募があり、その中から4名の作品が青梅市審査賞に選ばれました。また、「青梅市立第三小学校」と「青梅市立西中学校」が、東京都から感謝状贈呈校に選ばれました。



青梅市立西中学校
伊藤 光之輔さん (2年生)



青梅市立西中学校
井上 二哉さん (2年生)



青梅市立西中学校
松田 さゆりさん (2年生)

「原点回帰を！」

選挙管理委員会

委員長 川鍋 信夫



昨年十月、任期満了に伴う改選により委員長として再任させて頂きました。引き続き宜しくお願い申し上げます。

昨年は、市議会議員選挙、市長選挙が執行されましたが、明るい選挙推進協議会の皆様のご協力により無事に終了することが出来ました。心より御礼申し上げます。

さて、「歴史は繰り返す」の言葉通り、またまた「政治とカネ」の問題が起きてしまいました。混沌かつ不安定な今の時期、改めて原点回帰が求められるのでは。政治家の皆さんには、政の何たるかを。有権者の皆さんには、一票を投じる事とは何たるかを。

「講演会再開に想う」

明るい選挙推進協議会

会長 坂口 芳文



新型コロナウイルスの影響で令和元年度の最後の行事「五日市憲法」講演会が急遽中止になりました。

この公演会開催企画の経緯を少し記しておきたいと思えます。

安倍政権時代、憲法改正論議が盛んでした。少し憲法に係る講演を開催したいと考え、五日市憲法を調べていた際、憲法を発見した方が、新井勝紘氏であることを知りました。当時の原局長にお願いして講演を受諾して頂きましたが、直前に中止になってしまいました。今回「五日市憲法草案と千葉卓三郎」の講演を依頼している松崎稔氏は町田市立自由民権資料館の学芸員で長年、五日市憲法を研究されてきた研究者です。ちなみに新井氏はこの自由民権資料館の主査でした。



令和5年度明るい選挙推進協議会活動状況

月日	活動状況
4/17	青梅市議会議員選挙期日前投票立会人（～4/22）
6/7	東京都市明るい選挙推進協議会連合会定期総会
9/11	明るい選挙ポスターコンクール青梅市選考会
9/29	第1回明るい選挙推進協議会
10/8	地区啓発 青梅地区 他10地区（～11/19）
10/29	産業観光まつり 市長選挙啓発活動
11/6	青梅市長選挙期日前投票立会人（～11/11）
11/17	東京都明るい選挙推進大会
12/11	ポスターコンクール青梅市入選作品展示（～12/18）
12/12	青梅総合高校出前授業（高校3年生対象）
12/13	5市共催明るい選挙推進員研修会（昭島市開催）
12/21	第1回しろばら編集委員会
1/25	第2回明るい選挙推進協議会
2/1	第2回しろばら編集委員会
3/17	明るい選挙推進講演会

青梅市選挙管理委員会委員就任

青梅市選挙管理委員会は委員4名、補充員4名、計8名で構成されており、選挙の管理・運営や選挙人名簿の登録等を行っています。

そして、青梅市選挙管理委員会委員は4年に一度改選を行い、昨年十月に委員改選を行い、次の4名を新たな委員に迎え、今後の活動を行います。

委員長 川鍋 信夫
 委員 根本 太夫
 委員 山下 秀明
 委員 桑原 顕正

《選挙管理委員会委員（敬称略）》

令和6年7月7日 東京都知事選挙

を予定しています



「五市共催明るい選挙

推進委員研修会」感想

話し合い指導員 坂口 芳文

題記の研修会が、令和五年十二月十三日昭島市「アキシマエンス」で開催されました。演題は「選挙の話あれこれ」講師は、昭島市教育委員会・近代史調査員・三村章氏でした。配布された資料の概略を記すと以下のようになります。

男子普通選挙が初めて実施された総選挙は昭和三年の第十六回の衆議院選挙で青梅では津雲國利氏が初当選しています。完全普通選挙が実施されたのは昭和二十一年四月の総選挙で、このときから男女二十歳で投票権が有りました。昭和二十二年が第一回統一地方選、令和五年は第十八回目の年に当たりました。統一地方選から離脱した地方選は何か問題が起きた都市というお話でした。卑近な例では、今年の七月七日に投票日が決まった東京都知事選ですが、同じく都議会議員選挙も統一地方選から外れてしまっています。これは昭和四十年に起きた「東京都議会黒い霧事件」に起因しています。この事件の概要は議長選出に絡む議員との贈収賄事件でしたが、結局議会を解散に追い込むほどの逮捕者を出しました。令和六年度は青梅市が研修会の担当市です。早めに講演テーマの検討に入りたいと思います。

立会人体験記

第七投票区投票立会人 中村 藤雄

令和五年十一月五日の青梅市長選に立会人としてのお声かけをいただきました。もちろん初体験のことで緊張感を持って会場に出かけたのです。

投票時間は午前七時から午後八時までの長丁場、会場にやってくる人を眺めていて気付いたことがいくつかありました。地元の市長選ということ、そして候補者が二人だけということもあって候補者選択に迷うことなく記名をし、終始足取り軽く投票を済ませていました。

ところが今のご時世、高齢化進んでいるために足取りの重い方もたくさんお見受けし、その対策も必要になって来るのではないかと感じました。

ところで投票権はもちろん18才からですが、気付いたことの一つに、若者の姿が少ないことがあります。結果はどうでしたでしょうか。

編集後記

数年前からのコロナの災いも下火になり、周囲の状況も落ち着いてきている様相を感じます。コロナ禍の最中においても広報誌「しろばら」の編集会議は、毎月休まずに開催されてきました。さてこの間にも、都議会議員選・衆参議員選・統一地方選が粛々と執行されてきました。しかしながら、投票動向を見ますと、全体投票率が50%台となれば良い方で、投票権が18才からと拡大されたわりには若い方の投票率が落ちこんだ状況という傾向は改善されておりません。日本の内外環境は短期間で変化しており、政治情勢が、各人の生存にさえも影響を及ぼしてきております。投票を棄権することでなんらの罰則等はありませんが、我々の投票動向が、政治家を、更にはその先の将来の政治をも育てていく一因になることは記憶にとどめておきたいものです。

しろばら編集委員

- 青梅地区 並木 明
- 長淵地区 中村 佐内
- 梅郷地区 岩田 賢治
- 沢井地区 堀 美江
- 小曾木地区 吉崎 光一
- 成木地区 小山 結花里
- ◎東青梅地区 立川 勝己
- 新町地区 菊地 拓也
- 河辺地区 仲條 年春
- 藤橋・今井地区 吉田 昌之

◎は編集委員長



五市共催明るい選挙
推進委員研修会の会場写真



昭島市教育福祉センター
「アキシマエンス」の写真